

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 5 月 13 日、日足終値時点(NY 時間午後 5 時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)からの一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTQj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

そして、トレード戦略の解説は、YouTube で配信している「実践トレード解説」をご参考になしてください。

■ドル円

<<週足分析>>

先週の安値をブレイクしたことで、「トレーリングストップ」が付いた格好。

したがって、当面の高値を付けたことが確認でき、続落しやすい地合いと読む。
加えて、週足確定時点で「リバーサルパターン」が発生した格好。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、
(2)終値が+2 σ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。
一方、スーパーボリンジャー上は、本格上昇トレンド局面の条件は満たしている。
今後、終値と下値サポートである+1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

<<日足分析>>

調整反落局面。
終値がセンターラインを下回って以降、調整反落局面のシナリオ継続中。
調整反落の最終ターゲットは-2 σ ラインとなる。

<<4時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が
続き、終値が-2 σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

<<1時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。
終値と-1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。
また、高値切り下げパターンとなっている点にも注目。
すなわち、前週の高値 1.0590 近辺が上値レジスタンス。
尚、終値が-2 σ ラインを下回り、「走る相場」に変化しているため、「リバーサル

パターン」の発生にも注意しておきたい場面。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、引き続き「トレーリングストップ」が効果的。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<4時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<1時間足分析>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過するタイミングにあるものの、下放れ
してきており、売り圧力が強い状態。もっとも、週足ローソク足の形状(下ヒゲが長い)を
見るかぎり、底堅い地合いも示唆。

<<日足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が
続き、終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

<<4 時間足分析>>

調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回ったことで、本格的な調整反騰局面に入っている。
売リシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1 時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

■ポンドドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

尚、目先、-2σラインを下回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」
の発生にも注意をして臨みたいところ。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、
(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーリングストップ」が効果的。
売リシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインも点灯中。

<<日足分析>>

緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、 -1σ ラインが上値レジスタンスとなっている。

<<4 時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<1 時間足>>

本格上昇トレンド局面。
終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

■ユーロ円

<<週足>>

調整反落局面。
もともと、今後、終値がセンターラインをブレイク出来ない場合は、緩やかな上昇トレンド局面入りの可能性が高まると読む。
尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。
買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインも点灯中。

<<日足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<4 時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が -2σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサインが点灯中。

<<1 時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面。

もっとも、今後、終値がセンターラインをブレイク出来ない場合は、緩やかな上昇トレンド局面入りの可能性が高まると読む。

尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<4 時間足分析>>

調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回ったことで、本格的な調整反騰局面にあると読む。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中であり、猶予期間中に付けた安値水準が現時点で上値レジスタンスとなっている点に注目。

<<1 時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面。

もっとも、今後、終値がセンターラインをブレイク出来ない場合は、緩やかな上昇トレンド局面入りの可能性が高まると読む。

尚、「リバーサルパターン」発生後、軟調に推移、続落しやすい地合いと読む。

<<日足分析>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<4 時間足分析>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

<<1 時間足分析>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。